

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年8月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2674100272		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム音羽		
所在地	〒607-8006 京都市山科区音羽森廻り町34番地 (電話) 075-501-1121		
評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年7月30日	評価確定日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(19年 5月 31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成12年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 8.0 人	

(2)建物概要

建物構造	木・鉄骨 造り		
	2階建ての	2階 ~	1・2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	50,000 円
敷 金	有() 無()		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1270 円		

(4)利用者の概要(5月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低 71 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	音羽病院、音羽クリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

洛和会という大きな法人が運営されており、連携が強いものとなっています。また法人の理念のみではなく、ホーム独自でつくられた地域へ向けての理念もあります。社員寮だったということで、冷たい感じはありますが、それを払拭するように、玄関周りには観葉植物や花がたくさん植えられており、台付きのソファ・のれん・写真等、いたる所に工夫をされており、温かみを感じられます。自治会長の前向きな協力も得られており、地域とのつながりも構築されています。センター方式が取り入れられ、職員間で共有しながら、きめ細かいサービスがなされています。また「利用者本位のサービスを」という管理者の熱い思いが伝わってきます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点を踏まえ、職員間で検討し、トイレの手すり、玄関まわり等改善されています。地域への取り組みのひとつとして「音羽便り」という新聞を地域に回覧しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員で話し合いを持ち、最終のまとめに至るまで全員で確認をされています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回の運営推進会議には自治会長・会計担当・民生委員・包括支援センターの職員が参加しており、会議では、回覧版についてホームにも回してもらい、地域の情報を得るようにしたり、防災時の協力の呼びかけを通して地域との結びつきをさらに深める機会としています。行政からの参加はありませんが、議事録を送付しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	第三者の苦情窓口の案内が掲示しており、苦情箱も設置されており、意見を言いやすい状況となっています。また、ホームに来られた際に家族とコミュニケーションをとり、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮しています。法人の取り組みとして家族アンケートが年に2回実施され、その結果に基づき職員で話し合い改善しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事、学校行事に参加するなど、日常生活の中で地域との良い関係が構築されています。また自治会の敬老会に参加する予定もあり、幼稚園との交流についても計画中です。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念とは別に「地域と共に支え合う」という事業所独自の理念をカンファレンスにてスタッフで話し合い、つくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人としての理念もあるが独自のものをつくり、日々のケアに反映されているかを管理者と職員は話し合い、情報の共有ができる機会を多く持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	音羽たよりを地域に回覧している。地域の学校より、月1回行事案内等が送られてくる。また地域の中にある3つの学校より夏祭りなど招待を受けたり、前が神社で秋祭りに参加したり、自治会にも入会しており町内の敬老会に参加する予定もある。また、幼稚園児がホーム敷地内のプールを利用している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回改善点に挙げられていた、「施設的な雰囲気」という点について、花を増やしたり、花壇を作ったり、洗濯干し場を変更して家庭的になるように工夫されている。今回の自己評価については全員参加のカンファレンスにて検討・確認しており、可能な限り改善の方向に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議には自治会長・会計担当・民生委員・包括支援センターの職員が参加している。会議では、回覧版についてホームにも回してもらい、地域の情報を得るようにしたり、地域との結びつきをさらに深める機会としている。行政からの参加はいが、議事録を送付している。		

洛和グループホーム音羽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括センターの方が、運営推進会議に参加していますが、行政職員の会議への参加や連携が取れていません。</p>	○	<p>ホーム側から行政に働きかけ、ホームの実態や考えについてよく知ってもらい、情報を共有し、より良い関係づくりが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回、金銭出納表・写真・日頃の暮らしぶりをお便りにして送っている。また職員紹介ということで写真と一言を音羽新聞に掲載している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームに来られた際に家族とコミュニケーションをとり、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮している。廊下の突き当たりに苦情箱が置いてある。第三者の苦情窓口の案内が掲示されており、意見を言いやすい関係作りを目指している。また、法人の取り組みとして家族アンケートが年に2回実施され、その結果に基づき職員で話し合い改善している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者に影響のないように引き継ぎの期間をなるべく設けて、センター方式の活用にて情報を共有し、良い関係作りに努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>洛和会の年間研修計画がある。またグループホーム協会の新人研修、すこやかセンター主催の研修にも参加している。伝達研修については、研修資料を回覧し、カンファレンスにて管理者から研修内容について質問したり、意見を出し合っている。また、研修報告書は本部に提出し、コメントを入れたものが返される。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会・すこやかセンターの研修を通して同業者とつながりをもち、交流を図っている。また夏祭りには他施設の職員も参加しており、情報交換の場としている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族との面談の中から情報を収集し、見学後おやつ等を食べながら一緒に過ごしてもらい、様子を見たりしている。家族とのつながりを大切にされており、急なサービスの開始の場合は、安心してもらうように家族と一緒に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生まれ育ったところが違えば、味付けひとつ違うので、利用者に教わりながら職員が作っている。職員の子供達が宿題を教えて貰ったり、米のとぎ方、包丁のとぎ方等教えてもらい、良い関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式をとり入れ、24時間シートを活用しながら利用者の意向・生活歴など細かく記載され、把握している。個々のニーズは何かということを常に念頭におきながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式にて一人ひとりを把握し、本人、家族、医師の意見が取り入れられたケアプランが作成されている。職員の気づきについてもカンファレンスで話し合い、反映されている。独自のシートとして、24時間記録シートを用いて、計画と日常のケアにずれがないように把握し、また、ケアプランを記録簿に貼り付け、常に確認しながら個人のケア記録をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの内容は必ず3か月ごとに見直しをされており、カンファレンスにはほぼ全員が出席し、家族・職員が共有をした中でプランが立てられている。		

洛和グループホーム音羽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出の意義を職員間で検討し、散歩・買い物等可能な限り個別支援につなげている。また病院受診については家族の理解を深めるため、相談しながら実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に家族と相談して、主治医を決めている。2週間に1回の往診、週に1回訪問看護師による健康管理など、いつでも電話やFAXで連携をとれる体制である。また、併設のデイサービスの看護師との連携もとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としてのターミナル指針について、家族の同意を得ている。気持ちが変わる事もあるので、その後の意向について確認をし、主治医、看護師、職員と話し合いを繰り返しながらホームでのターミナルを考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けについては常に誇りやプライバシーについて気をつけており、対応については極力居室にて行うように心がけている。個人記録についても、鍵つきロッカーに保管をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は6:30~8:30と幅がもたせてあり、散歩についても職員体制が潤っており希望にそって行なわれている。		

洛和グループホーム音羽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週刊誌の中の献立を取り入れたり、冷蔵庫の中のものを見て利用者と相談をしながら献立をたてている。またおやつと一緒に作ったり、食事の後片付けについても、一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて、毎日でも入浴できる体制ができています。1日に2回入っている場合もあり、入れない時は清拭か足浴で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式にて、生活歴の把握をしており、ゲーム・花札・お花・散歩・買い物・カラオケ等一人ひとりに合った楽しみ事の時間をとるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1対1での散歩が多く、個人個人がまんべんなく平均して出かけられるよう支援している。また納涼祭での食事会・植物園見学後の円山公園での食事会等、年間を通して様々な所へ出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	デイサービスと出入り口が一緒になっており、玄関は常に開いている。ガレージの中も自由に行き来できるよう、廊下から見守りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署による防災訓練、2ヶ月に1回、ホーム独自で通報訓練、搬出方法などの訓練を行っている。また運営推進会議において、次回の案内と参加の呼びかけをし、地域の協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取記録は全員、水分摂取量のチェックは3ヶ月に1回ワンウィークシートにて必要な方のみ記録をし、把握をしている。献立については毎月、法人の栄養士に送りアドバイスを受ける体制がとられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はデイサービスと一緒にしているが、家庭的な雰囲気を出す工夫として玄関まわりに花がたくさん植えられており、長い廊下には写真が飾られたり、カーテン・のれんなどで工夫をされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台・仏壇・学習机・タンス等、今まで使っていた馴染みのものや家族、職員で話合っその方に合った物が持ち込まれている。床についても畳・フローリングの部屋が用意されている。		